

世界史 条約・国際会議史 確認問題集

全19問 / 解答・解説は後半

名前 _____

記事「世界史 条約・国際会議史まとめ | ウェストファリアから冷戦終結まで」を読んだあとに解く問題集です。答えを書いてから後半の解答・解説で確かめ、間違えた問題は解説にある記事の節を読み直してください。

第1部 一問一答

問いに当てはまる語句を答えなさい。

- 1 三十年戦争の講和会議が開かれた、ウェストファリア地方の2つの都市のうち、オスナブリュックでないほうはどこか。

- 2 1714年にフランスとオーストリアの間で結ばれ、オーストリアがスペイン領ネーデルラントを得た条約は何か。

- 3 七年戦争と同じころ、北アメリカでイギリスとフランスが戦った戦争を何というか。

- 4 ウィーン会議で、一つの国だけが強くなりすぎないように大国の力をつり合わせることを何というか。

- 5 ウィーン体制を支えた同盟として、四国同盟とならんで挙げられるものは何か。

- 6 1878年3月、露土戦争に勝ったロシアがオスマン帝国と結んだ講和条約は何か。

- 7 1884～85年のベルリン会議で、ベルギー国王の組織によるコンゴ盆地の統治が認められて生まれた国は何か。

- 8 露仏同盟、英仏協商、英露協商が重なって形づくられた、イギリス・フランス・ロシアの結びつきを何というか。

- 9 1843年に清とイギリスの間で結ばれ、五港通商章程とともに清に不利な条項を定めた、南京条約の追加条約は何か。

- 10 1925年に結ばれ、ドイツとフランス・ベルギーの国境の現状維持とラインラントの非武装を確認した条約は何か。

第2部 正誤問題

次の文ア～エのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 11 ウェストファリア条約について。

- ア 三十年戦争の講和条約である。
- イ スイスとオランダの独立が正式に認められた。
- ウ カルヴァン派も認められた。
- エ ドイツの諸侯は主権を失い、神聖ローマ皇帝の支配が強まった。

- 12 ウィーン会議について。

- ア オーストリアのメッテルニヒが会議を主宰した。
- イ 正統主義を唱えたのはメッテルニヒである。
- ウ イギリスはセイロン島とケープ植民地を得た。
- エ スイスの永世中立が認められた。

- 13 清が結んだ条約について。

- ア ネルチンスク条約で、アルグン川と外興安嶺を境とする国境が決まった。
- イ 南京条約で、香港島の割譲と5港の開港が決まった。
- ウ アイグン条約で、ロシアは沿海州を手に入れた。
- エ 北京条約で、天津の開港が決まった。

- 14 第一次世界大戦後の国際秩序について。

- ア パリ講和会議では、ウィルソンの十四か条が原則とされた。
- イ ヴェルサイユ条約で、ドイツはアルザス・ロレーヌをフランスに返した。
- ウ ワシントン会議の四か国条約で、中国の門戸開放が定められた。
- エ 不戦条約には、違反した国への制裁の規定がなかった。

第3部 年代の並べ替え

次のア～エを、古いものから年代順に並べなさい。

15 ヨーロッパの講和条約・会議を年代順に並べなさい。

- ア ウィーン会議が開かれた。
- イ ユトレヒト条約が結ばれた。
- ウ クリミア戦争の講和としてパリ条約が結ばれた。
- エ 七年戦争の講和としてパリ条約が結ばれた。

16 清が結んだ条約を年代順に並べなさい。

- ア 北京条約
- イ 南京条約
- ウ キャフタ条約
- エ 天津条約

17 戦間期の出来事を年代順に並べなさい。

- ア ミュンヘン会談が開かれた。
- イ 不戦条約が結ばれた。
- ウ 独ソ不可侵条約が結ばれた。
- エ ロカルノ条約が結ばれた。

第4部 論述問題

次の問いに答えなさい。字数は目安です。

18 1878年のベルリン会議が開かれた経緯と、その結果を100字程度で説明しなさい。

19 第一次世界大戦後の国際協調が1930年代に崩れていった過程を、条約・会議の名を挙げて150字程度で説明しなさい。

世界史 条約・国際会議史 確認問題集 解答・解説

第1部 一問一答

1 ミュンスター

講和会議は1645年から2つの都市に分かれて開かれ、1648年にウェストファリア条約が結ばれました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／17世紀

2 ラシュタット条約

前年のユトレヒト条約とあわせて、スペイン継承戦争の講和を形づくりしました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／18世紀

3 フレンチ＝インディアン戦争

1763年のパリ条約で、フランスは北アメリカ大陸の領土をほぼ失いました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／18世紀

4 勢力均衡

タレーランの唱えた正統主義とならぶ、ウィーン会議の2つの原則の一つです。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／19世紀前半

5 神聖同盟

ウィーン体制は自由主義や民族主義の運動をおさえましたが、1830年と1848年の革命で崩れていきました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／19世紀前半

6 サン＝ステファノ条約

広いブルガリアをロシアの影響下に置く内容でしたが、ベルリン会議で修正されました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／19世紀後半

7 コンゴ自由国

この会議では、アフリカの沿岸部を新たに併合するときの原則も定められました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／帝国主義の時代

8 三国協商

ドイツ・オーストリア・イタリアの三国同盟と向き合い、第一次世界大戦へ向かう対立の構図をつくりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／帝国主義の時代

9 虎門寨追加条約

領事裁判権・最恵国待遇・関税の協定などがはっきり定められ、不平等条約の始まりとなりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／東アジア（1）

10 ロカルノ条約

イギリスとイタリアが保障に加わり、1926年のドイツの国際連盟加盟へとつながりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／1920年代～第二次世界大戦

第2部 正誤問題

11 エ

ドイツの諸侯はほぼ完全な主権を認められ、神聖ローマ帝国は名目だけの存在になりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／17世紀、入試で狙われるポイント

12 イ

正統主義を唱えたのはフランス代表のタレーランです。メッテルニヒは会議を主宰しました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／19世紀前半、比べて覚える

13 ウ

アイグン条約では黒竜江以北がロシア領となりました。沿海州を得たのは1860年の北京条約です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／東アジア（1）

14 ウ

中国の門戸開放・機会均等を定めたのは九か国条約です。四か国条約は太平洋の島々の現状維持と日英同盟の廃棄です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／第一次世界大戦後、入試で狙われるポイント

第3部 年代の並べ替え

15 イ→エ→ア→ウ

ユトレヒト条約（1713年）→パリ条約（1763年）→ウィーン会議（1814～15年）→パリ条約（1856年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

16 ウ→イ→エ→ア

キャフタ条約（1727年）→南京条約（1842年）→天津条約（1858年）→北京条約（1860年）の順です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／東アジア（1）

17 エ→イ→ア→ウ

ロカルノ条約（1925年）→不戦条約（1928年）→ミュンヘン会談（1938年）→独ソ不可侵条約（1939年）の順です。

記事の該当箇所：入試で狙われるポイント

第4部 論述問題

- 18 解答例：露土戦争に勝ったロシアはサン＝ステファノ条約で広いブルガリアを影響下に置こうとしたが、英粵が反発し、ビスマルクの仲介でベルリン会議が開かれた。ブルガリアは縮小され、ロシアの南下政策は挫折した。**

採点のポイント：①露土戦争とサン＝ステファノ条約、②イギリス・オーストリアの反発、③ビスマルクの仲介、④ブルガリアの縮小やロシアの南下政策の挫折が入っているか。オーストリアのボスニア・ヘルツェゴヴィナの行政権、イギリスのキプロス島にふれてもよい。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／19世紀後半

- 19 解答例：ヴェルサイユ条約でドイツに厳しい条件が課される一方、ワシントン会議の諸条約やロカルノ条約、不戦条約によって協調が進んだ。しかし1930年代にドイツは軍備制限とロカルノ条約を破棄し、ミュンヘン会談での宥和政策を経て、独ソ不可侵条約の直後に第二次世界大戦が始まった。**

採点のポイント：①ヴェルサイユ条約、②ワシントン会議・ロカルノ条約・不戦条約による協調、③ドイツによる条約の破棄、④ミュンヘン会談と宥和政策、⑤独ソ不可侵条約と開戦が順序よく書けているか。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／1920年代～第二次世界大戦、論述で使える要点

記事：世界史 条約・国際会議史まとめ | ウェストファリアから冷戦終結まで <https://lawcityblog.com/sekaishi-theme-joyaku/>
問題・解説は文系ラボのオリジナルです。無断転載を禁じます。